

淡

海

人と企業とNPOをつなぐ市民情報紙
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

おっみネット

●発行日 / 2013年10月1日 ●発行所 / 公益財団法人 淡海文化振興財団

元気印 NPO ①

売り文句は
『ドアからドアへ』

福祉

NPO 法人

外出支援ボランティア
スマイル ②

NPOのIT活用術
白鳥川の景観を良くする会 ⑥

世間よし〜企業の社会貢献〜
株式会社いのうえ ⑤

特集★OHMI視点 ①
自分も楽しむボランティア
人・地域・社会とのつながりの第一歩

①

⑤

⑥

元気印 NPO ③

楽しむうちに
気づいたらそれが寄付に

福祉

NPO 法人

夢・同人 ⑥

元気印 NPO ④

伝統文化や伝承を
掘り起こして
地域を活性化

地域おこし

板並炭焼き保存会 ④

④

自分も楽しむボランティア

人・地域・社会とのつながりの第一歩

ボランティアに参加したいけど、躊躇して参加できないという方はいませんか。「ボランティア」は、困っている人を助けたいという高い志を持った人というイメージはありませんか。

最近のボランティアは、参加費を払ってする雪かきのお手伝いや、河川敷・浜辺の清掃、託児のお手伝いなど色々あり、初めての人が参加しやすい活動も増えています。

今回、ボランティアへ参加することを考えてみます。

ボランティアは、人生の数多い喜びのひとつ

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授
認定NPO法人日本NPOセンター副代表理事

萩原なつ子さん



▲荒川での活動

好天に恵まれた六月十五日、荒川の河川敷でゴミ拾いと外来植物の草刈の活動に参加した。百人を超える参加者とともに、本当に久しぶりに気持ちのよい大汗をかいた。主催はNPO法人荒川クリーンエイド・フォーラム。彼らは「はじめよう！拾うだけじゃないゴミ拾い」をキャッチフレーズに長年活動している。その心は、「ごみ拾いを通して、参加する人の意識を変える、荒川を変える、社会を変える」こと。友人に誘われて家族連れで参加したという会社員の男性は、ボランティア活動そのものが初体験。

「いや、やらないうちから片っ端から抜き始める」と声があがった。実際に始めるとすぐに、「いや、気持ちいいものですね。」

抜き放題ですよ」と声があがった。実は、参加すると決めたものの、ちょっと不安があったそうだ。でも、その不安はすぐに消し飛んだようだ。ゴミ拾いを始めたとき、帯状に堆積するゴミの山を前に彼は絶句していた。「焼け石に水かも。いや、やらないうちから片っ端から抜き始める」と声があがった。実際に始めるとすぐに、「いや、気持ちいいものですね。」

たほうがいい。誰がやるの？私でしよう！」と思ったのかどうかはわからないが、彼はゴミ袋とトンダを手に、黙々とゴミ拾いを始めた。私は彼の化学反応が起った瞬間を目撃したのかもしれない。

私がボランティアやNPOの話させていたただく際に必ずご紹介する言葉がある。

「何かを不思議に思ったら、何かを美しいと思ったら、何かをこれじゃ困ると思うたら、もうそれが研究の始まりです。みつめる、考える、話し合う、歩き回る、手でさわる、筋道を立てる、試行錯誤大いに結構、結論が出なくてもいい、挫折も必要、けんかも楽しい。研究は人生の数多い喜びのひとつです。」

これは(財)トヨタ財団が実施していた「市民研究コンクール」身近な環境をみつめよう(一九七九—一九九七)の応募要項に、選考委員の一人だった詩人の谷川俊太郎さんが寄せてくださったものだ。「研究」のところを「活動」や「ボランティア」に読み変えてみ

て欲しい。誰でも、何かを不思議に思ったり、美しいと思ったり、困ると思ったりすることはあるはずだ。そう、もうそれが活動の始まりであり、ボランティアの始まり。そして、それは「人生の数多い喜びのひとつ」になる。

荒川で出会ったボランティア一年生は、別れ際、「また、お会いしましょう！」と笑顔で声をかけてくれた。ボランティアが、私々を変える第一歩となったことを実感した。

萩原なつ子さん●プロフィール

1979年明治学院大学文学部英文学科、1982年同社会学部社会学科卒業。1988年お茶の水女子大学大学院修了。博士(学術)。(財)トヨタ財団アソシエイト・プログラム・オフィサー、宮城県環境生活部次長、武蔵工業大学環境情報学部助教授などを経て、現職。専門は環境社会学、非営利活動論。ジェンダー研究。





代表●杉本一也(すぎもと かずや)
 設立●2005年(2006年2月に法人格取得)
 会員●22名
 連絡先●竜王町小口4-1
 TEL : 080-6134-4010

地域の困り事は 地域で解決！ 外出支援でスマイルに♪

竜王町で高齢者や障がい者の外出支援をしているボランティア団体です。

同町は病院や銀行、商店などが遠隔しており、公共交通の利便性にも乏しい地域性があり、不便を感じる住民が少なくありませんでした。

そこで平成17年に社会福祉協議会が有償運送を始めましたが、継続性が問題に。「地域で必要とされている以上何とか続けられないか」と有志5～6人が活動を引き継ぎ、より安全面や体制を整えた取り組みへと発展させていきました。現在約20人の運転手と事務員が対応。利用目的の多くが通院と買い物です。1日平均2～3件、多い日だと4～5件の依頼にえています。

「売り文句は『ドアからドアへ』。移動中のおしゃべりも魅力の一つのようです」と代表の杉本さん。メンバーも利用者も同じ住民同士です。共通の話題に花が咲いたり、話し相手になったりと、単なる移動支援だけでないぬくもりがあ



▲チームワーク抜群。代表の杉本さん(右)と事務員の川部さん(左)

ります。地域のためにと集まったメンバーのチームワークの良さで続く、住民による暮らしの助け合い・支え合いの仕組みを垣間見ることができました。

(おうみネットサポーター 中塚一恵)



▲ドアからドアへ送迎。地域住民で行う移動支援

ボランティア募集团体

NPO法人元気な仲間「たすけあい高島」

TEL : 0740-25-8360
 E-mail : tasukeai@npo-genki.com
 URL : http://www.npo-genki.com/

●活動紹介

「困った時はお互い様」として、生活の中の困りごとを会員同士で助け合う相互扶助活動です。

●ボランティア募集内容

「まかせて(活動)会員」を大募集しています！！

◇活動内容：子供の見守り、買い物や食事の準備、高齢者の見守りや話し相手、部屋の整頓や高い所の掃除など、様々なお手伝いがあります。

◇対象：高島市内在住または在勤の方

◇こんな方、お待ちしております！

世話好きな方、優しく話を聞ける方、「お互い様」を理解できる方

◇メッセージ：自分の出来る範囲で出来ることをやってみませんか。ぜひあなたの力を支え合いのあるまちづくりのために使いませんか。

※詳細は団体までお問い合わせください。



一般社団法人 比良里山クラブ

TEL : 077-527-2833
 E-mail : info@hira-satoyama.net
 URL : http://hira-satoyama.net/

●活動紹介

大津市比良地域で里山保全をテーマに子どもからお年寄りまでが楽しく参加できる活動をしています。

●ボランティア募集内容

◇活動内容：

①赤シソ栽培：※作業はシソの成長や天候に合わせて進めています。

・苗の植え付け(今年は終了、通常5月連休頃から開始)
 ・葉の収穫：7月中旬～8月お盆頃(今年は下旬まであり)

②地元中学生環境学習体験受け入れ：

・10月末～11月頃予定(今年は10月24日実施)
 ・どなたでもボランティア参加できます

※上記以外にも、キッズクラブや森の整備活動、単発イベント時のサポーターも随時募集しています。

◇メッセージ：老いも若きも気さくな雰囲気ワイワイとやっています。ボランティアの内容も色々ありますので、興味を持たれた分野に、参加してください。いつでもお待ちしております！！

※詳細は団体までお問い合わせください。



一つの想いでボランティアを続け、自分自身の活動を広げる

アートサポートたかしま 代表、NPO法人スウィング 亀井友美さん

Q 市民活動へ関わるようになったきっかけは何ですか。

A 芸大学生時に「ボーダレス・アートミュージアムNOMA」の展覧会に行き、自由な発想から造られた障がい者の作品を見て衝撃を受けました。

その後、滋賀県のアートサポーター派遣事業に参加し、大津市内でサポーター活動を始めました。

Q 「アートサポートたかしま」を始めたきっかけは何ですか。

A 高島市にある「社福」虹の会になろう（以下、「わになろう」）のメンバーが描いた作品を見て関心を持っていた時に、「わになろう」がアートサポーターを探していて声をかけられ、活動に参加するようにになりました。

しばらくするとアートサポート事業が終了することになり、サポート活動継続の資金として助成金を受けるためにボランティアグループ「アートサポートたかしま」を設立しました。

Q ボランティアをきっかけにご自身の活動は広がりましたか。

A 現在、週4日京都にある障がい者支援施設「NPO法人スウィング」の「芸術創作活動オレたちひょうげん族」（以下、「ひょうげん族」）で非常勤スタッフとして働いています。働くきっかけは、二〇一〇年に行われた「京都文化祭典」で一緒にワークショップをした時から

の縁です。イベントなどで繋がっていたのですが、今度スタッフを募集するからと声をかけてもらいました。ボランティアを続けたことでやりたい仕事に就くことが出来ました。「ひょうげん族」では、メンバーの絵をTシャツ等にデザインした商品を販売しています。

Q 今後の活動への想いをお聞かせください。

A 「わになろう」は来年春、元幼稚園の建物に移転します。現在アート活動は月2回の決められた時間しかできないので、移転先ではメンバーが作品作りと鑑賞をいつでもできる部屋ができればいいなと思っています。

自分の将来についてはまだ明確ではないですが、この活動は色んな人たちと関わることで常に新鮮さを感じられるので、今後も続けていきたいです。



▲亀井友美さん(メンバーの作品をバックに)



▲メンバーと一緒にイベント用旗づくり

※1 地域で暮らしている障がい者の方たちの造形活動の場を派遣し、絵画や粘土などの造形活動を支援する事業
※2 施設利用者

企業退職前の職能を活かした参加

NPO法人NPOぽぼハウスNPO活動部(広報・渉外) 黒田雅夫さん

Q 会社員時代に市民活動団体との関わりはありましたか。

A 仕事では福祉用具を扱っており、福祉・介護施設などに営業に回っており、その際にヘルパー二級と福祉用具専門相談員の資格も取りました。

その際には、ボランティアなど直接市民活動団体さんと関わることはできませんでしたが、現在はボランティアの方と一緒に活動しています。

Q では、市民活動へ関わるようになったきっかけは何ですか。

A たまたま隣人がぽぼハウスの副理事長で、私が福祉と関わりのある仕事をしてたことや資格のことをご存知で退職前から手伝ってほしいと誘われていました。私には同居する孫や一人で暮らしている親がおり、子育てと介護は身近なことだったので退職を機に活動に参加することにしました。始めてから約一年半経ちます。

Q 現在どういった活動をされていますか。

A NPOぽぼハウスというNPO法人で、週三日活動しています。「NPO活動部」に所属しており、補助金関係事業、広報誌「ぽぼだより」の配布、PR活動などを担当しています。ネットワークを広げるために、「ぽぼだより」はほとんど直接手渡し、情報を得るように心がけています。



▲黒田雅夫さん



▲利用者さんと談話

しています。対外的なことだけではなく、昨年度は団体内での情報共有を目的に各事業毎の年間活動実績一覧表を作成し総会で配布したところ、「活動の全体像がよくわかる」と喜ばれました。また、職員同士交流ができることが情報共有の第一歩と考え、約七十名の職員全員が他の職員を分かるようになるために、職員全員の顔写真と名前を記載したものを本部事務所内の壁に貼るようになりました。

Q 今後の活動への想いをお聞かせください。

A 福祉や市民活動は幅広く奥が深いので学ぶことが多いですが、決して中途半端にはなく、広く浅くをモットーに色々な講座やイベント等にも積極的に参加し勉強しています。また、そこで得たネットワークを活かして交流を広げていき、NPOぽぼハウスの活動を更に地域の方に広げていき、他団体の情報で活用できそうなことは積極的に取り入れ、NPOぽぼハウスの発展のために活かしていきたいと思っています。

代表●古田澄雄(ふるた すみお)
設立●2004年
会員●13名
連絡先●米原市上板並305
伊吹の山里 片田舎
TEL & FAX : 0749-56-1222
E-mail : Osao.Ko@hotmail.co.jp



過去(伝統)を未来に繋げ、 新しい希望を生み、 広げ、深めます！



▲炭焼き作業風景

滋賀県一の標高を誇る霊峰・伊吹山のふもとを流れる姉川沿いに点在する集落、そこが“^{ゆず}柚子の香るかくれ里”と呼ばれる「上板並・下板並」地区です。戸数約60戸余、文字通り、過疎化の波が押し寄せる中、今から9年前、すたれ行く一方

の炭焼きをはじめ伝統文化を後世に伝承しようと「板並炭焼き保存会」が発足、今では会員13人の組織に成長しました。往古の昔から脈々と培われてきた精神文化・「^{なおり}直会※」、そして、会員一人ひとりの飽くなき未来志向と探求心・進取の気性が、「会」をさらに発展・向上・深化させていきます。

「会」発足間もない「直会」での若手(60代)会員の提案を契機に、「会」の社会的使命(ミッション)を“地域おこし”へと昇華させていきました。また地域には、代々、古老から言い伝えられてきた神話、伝説の類の“至宝”が数多く埋もれています。そこで、これらの地域の宝さがしをと、有志による数次の踏査隊が編成されてきました。その結果、落差100mにも及ぶ「大滝」、「姉川さざれ石群」、「さざれ石岩盤の小滝」等々現代人が足を踏み入れたことのない秘境・秘宝が続々と日の目を見ることになりました。最近では、地元食文化

「かきもち」と全国的にも有名な「名水」、そして「炭」をセットにしたブランド商品を開発、震災時の非常食としてインターネットで販売したところ、注文が殺到し現在は品切れ状態。さらには、炭焼き電気炉の提供を申し出る



▲ある「直会」風景

人まで現れ、企業化がすすめば雇用の拡大ひいては若者の流入環境が整うとして、いよいよ“地域おこし”も夢ではなくなりつつあります。こうして「直会文化」から生まれた“地域おこし”が、さらに発展・向上・深化して、やがて大輪の花を咲かせる日もそう遠くないものと実感させられました。

*直会(なおり)：本来は、神事に係る共飲共食儀礼に由来する行事(おうみネットサポーター 荒木威)

ボランティアへ参加したい時には、下記へお問い合わせ下さい。

★知っ得インフォメーション★

◆しがボランティアネット/運営：滋賀県社会福祉協議会ボランティアセンター
滋賀県内で活動しているボランティア団体の情報、イベント・研修・講座情報、ボランティア募集情報等、ボランティアに関する情報を掲載しているサイトです。

TEL : 077-567-3924 <http://www.shiga-volunteer.net/>

◆滋賀県市町の間支援センター

【公設民営】

○淡海ネットワークセンター

TEL : 077-524-8440

URL : <http://www.ohmi-net.com/>

○あいこうか市民活動・ボランティアセンター

TEL : 0748-86-6173

URL : <http://kokanpovs.blog.ocn.ne.jp/>

○大津市市民活動センター

TEL : 077-527-8661

URL : <http://otsu-npovol.jp/>

○草津市立まちづくりセンター まちづくり振興課

TEL : 077-565-0477

URL : <http://9324.jp/machi/>

○たかしま市民協働交流センター

TEL : 0740-20-5758

URL : <http://tkkc.takashima-shiga.jp/>

○まちづくりネット東近江

TEL : 0748-24-5571

URL : <http://www.e-ohminet.com/>

○守山市民交流センター

TEL : 077-583-2975

URL : <http://www.usennet.ne.jp/~mkoryu-c/>

【公設公営】

○野洲市市民活動支援センター

TEL : 077-518-0556

MAIL : kyoudou@city.yasu.lg.jp

◆滋賀県レイカディア大学/運営：滋賀県社会福祉協議会

高齢者の社会参加意欲の高まりに応え、高齢者が新しい知識、教養と技術を身につけ、地域の担い手として登場できるよう支援している場で、草津校と米原校があります。

問い合わせ先：草津校 TEL : 077-567-3901

http://www.e-biwako.jp/O4_daigaku/

人からの誘い、学生生活、退職などボランティアへの参加のきっかけは人それぞれです。参加後の自分自身の活動の広がりや意識の変化もさまざまです。しかし、多くの方はボランティアに参加したことで、「他人事ではなく、自分の事として考える」という当事者意識が生まれます。中には、自分の将来にも影響を与え継続することで仕事につながった人もいます。

他人まかせにしない社会や環境、未来の利益につながる活動への一歩を踏み出してみてください。

市民活動への期待

地域で育ち、地域へ帰る

今回、縁あって原稿のご依頼が飛び込んで来ました。自分自身の性格判断の一部に「軽い」部分もあり簡単に引き受けさせて頂いたのが大きな反省であります。何故なら「市民活動への期待」という、幅も奥行もあるテーマだということです。私が今お世話になっている(一社)滋賀県労働者福祉協議会で2年が経過、3年目を迎え「労働者の自主福祉とは？」で日々多くの仲間の皆さんと見えないものを見えるように、出来ないものを出来るようにという思いの中で発展途上の「壁」との葛藤をしているからです。

さて、私が地域(市民活動)との関わりを持ったのは、町内の「常会」に父に代わり出席したのがきっかけの様気がします。その中で、体育委員、生産組合長、町会長などの役回りから派生し、市町行政との拘わりで青少年学区民会議や保育園、小学校、中学校の役員等、さらには、会社では労働組合を通じて、組合員のため、会社のため、自分のため、家族のため等、「ため」を通じて多くの経験をさせて頂き、多くの教訓や知識、人脈に恵まれました。

この様に振り返ると、市民活動の原点は「地域」すなわち自分がこの世に生を受けた場所ではないかと考えます。今の職場で市民活動家の人たちやNPO団体の皆さんと交流や意見交換の場が存在します。ありがたいです。地域で市民活動に携わっている人を見るにつけエールを送りたいです。若い人からお年を召した方まで億劫がらずに顔を突っ込んでみてはいかがでしょうか。最後は「誰のため」でもありません。自分自身のために！！



人と企業と NPOをつなぐ

HI・RO・BA



地域力を高める メッセージコーナー

一般社団法人 滋賀県労働者福祉協議会
専務理事

山元 明さん

世間よし ~企業の社会貢献~

企業に限らず、市民と行政、行政と企業などの、新しい市民協働(パートナーシップ)のカタチを紹介します。

SEKENYOSHI

株式会社いのうえ

大津市丸の内4-41
TEL : 077-522-7352 FAX : 077-526-1977 URL : <http://www.oishiga.com/>

滋賀への思い・こだわりで広げる 地産地消商品づくり

株式会社いのうえは、昭和24年から大津市で土産物卸売業をしている老舗店です。三代目専務井上修司さんは、滋賀県内の農作物だけを使った地産地消商品の企画・販売を11年前から精力的に続けておられます。

今回、この地産地消商品づくりについて井上さんにお話を伺いました。

「地産地消商品を作ろうと思ったきっかけは、営業先で『滋賀って何が名物なの?』と聞かれ、改めて何だろうと考えたが、すぐには思いつかなかったことです。この質問に触発され、無いなら自分でつくり滋賀県に来た人達に滋賀の旬のものを味わってもらい、滋賀の事をもっと知ってもらおうと、滋賀県産の物を使った地産地消商品づくりを始めました。



▲滋賀の大地でアスパラがとれるんです。

商品は、2002年近江米米粉を使用した「近江米うどん」から始まり、材料全てが大津市産の大津まるごとカレー、それを発展させた滋賀まるごとカレー、2年前からは毎年9月に開催されるイナズマロック

フェスとの連携でイナズマロックカレーやカレーパンを企画販売、今年は草津メロンを使った商品づくりにも取り組みます。



▲のびのびと放牧で育つから気性も穏やかな近江牛・母牛さんと。(木下牧場にて)

この地産地消商品では、商品食材の生産者インタビューをホームページ上で公開し、生産者ブランドをPRしています。

時々『なんで滋賀県ばかりなの?』と聞かれますが、滋賀県が好き、琵琶湖も好き、ずっと滋賀で育ってきたこと、それと滋賀県は近畿の水を預かっているのだから、農家さんと一緒に環境を意識して美味しい野菜作りをしたら近畿の人達が喜びだろうと思って、滋賀の野菜にこだわっています。」

井上さんが小売店として生産者と消費者の間に立つことで、直接お客さんから商品についての声を聞き、その声を生産者に届ける。生産者はそれが励みとなり要望に応えようとさらに美味しい物を作る。その作られた物を使った商品を井上さんが考えて売る、といった形の「三方よし」で素晴らしい商品づくりに結びつけようとしておられます。

(淡海ネットワークセンタースタッフ 牧野利花)

福祉



NPO 法人 夢・同人

代表 ● 國松善次(くにまつ よしつぐ)
 設立 ● 1995年(2009年に法人格取得)
 会員 ● 58名(2012年度)
 連絡先 ● 彦根市馬場1-4-29湖風庵
 TEL & FAX : 0749-22-2353
 E-mail : yumedoujin@ares.eonet.ne.jp
 URL : http://yumedoujin.org/

「気がつけば福祉」を 合言葉に、気軽な 社会貢献を広めたい

夢・同人は、1995年に井伊文子さん(井伊直愛さん(元彦根市長)夫人)の呼びかけで、県北部に重度障がい児(者)の療護



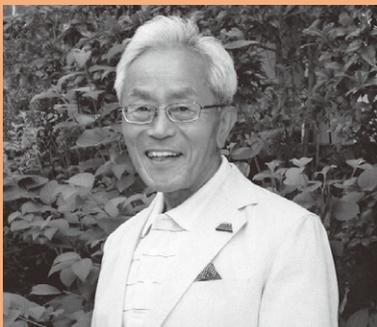
▲ライブコンサートやオークションで「気がつけば福祉」を実現

施設建設を求めて活動を始めました。施設建設のための費用寄付を集めるという当初の目標を達成し、その後継続して障がい者の活動を支援するため法人化して現在に至ります。チャリティーイベントの収益の一部や寄付金、そして会費を県内外の障がい者や団体などへ寄付する一方で、障がい者のご家族を地元スポーツチームのホームゲームに招待、障害者施設応援事業としてバンド

を派遣してのライブ活動やチャリティー墨蹟事業等をして

います。
 法人のスローガンは、「気がつけば福祉、障害者支援をあなたとともに」ということで、チャリティー・オークションやライブイベントで楽しむうちに気づいたらそれが寄付になっている。NPO 法人夢・同人はそういうスタンスのボランティアを提案し、もっとたくさんの方に参加して頂こうと15年以上活動を続けています。ボランティア団体時代も含め、今日

まで何度も運営の危機はあったが、その都度支えてくださる方々に出会い、今につながる、まさに一期一会であるといえます。この活動を継続することで、もっと多くの方に理解され会員となって支えて頂くことが夢・



▲理事長は國松善次さん(元滋賀県知事)

同人にかかわるみんなの夢だそうです。呼びかけ人の井伊文子さんは常に「自分に何ができるか」を問い続けていたとのこと。事務局を訪問し、その精神がこれからも受け継がれている活動だと感じました。

(おうみネットサポーター 幡郁枝)

NPOのIT活用術！

白鳥川の景観を良くする会
<http://www.sky484.com>

情報発信して参加者を募り
 新たな交流を生み出す



近江八幡市の白鳥川の清掃活動などに取り組んでいる「白鳥川の景観を良くする会」。一人でも多くの人に環境改善の活動に参加してもらいたい、という思いからホームページを作成。活動内容を紹介し、ボランティアへの参加を呼びかけています。

ホームページの情報発信について、ご担当者に聞いてみると「一緒に行事に参加してもらえる機会が増えました。」とのこと。桜並木に飾るぼんぼりに、自治会の子どもたちから募集した手描きの絵を添えたり、市民の皆さんから寄贈された鯉のぼりを川渡しにして展示したほか、小学生の課外学習で白鳥川の生き物調査のサポートをするなど、世代を超えた交流が、ホームページをきっかけに生まれてきたそうです。こうした活動は、写真とともにホームページで紹介され、インターネットを通じて、活動が次の参加者を呼び込む、良い循環が生まれています。

おうみ未来塾 リレーエッセイ

「できる」を持続的に支える 仕組みづくり

Ohmi Miraijyuku Relay Essay

11期生 徳永 操(とくなが みさお)
 グループ：ほっと commons

未来塾では、「地域とつくる！ “ほっと”交流スペース再構築事業」を大津の町家を拠点に活動を行いました。そこで全くの無知から、市民活動について少し「知る」ことはできましたが「知る」と「できる」の間にはいくつものハードルがありました。未来塾では「知る」ことから「できる」ようになるまでの過程を、座学・フィールドワーク・チーム活動を通じ学ばせていただきましたと思います。

卒塾後、県内のNPOや市民団体の情報発信支援事業のチームの一員として2カ年の活動を行いました。そこで学んだことは「できる」を持続的に支える仕組みづくりです。

例えば、資金やひと、また持続的な運営に必要な機動力、マネジメント力、巻き込み力などがバランスよく行われている団体は体力があり「課題解決」にチカラが注がれています。それによって新たな資金やひとが集まり「できる」を持続的に支える仕組みができあがっていました。そして「持続的に



支える仕組み」の裏側にはICT(情報通信技術)を上手く活用されている団体が多いということは驚きでした。まだ、表にはでにくい分野ですが、今後、県内のNPOや市民団体の情報発信相談窓口や、サイト制作などを通じ「持続的に支える仕組みづくり」の後方支援活動を行いながら、市民活動に関わっていければと思います。

寄付 未来ファンドおうみ寄付支援事業 おうみチャレンジ基金 寄付募集

淡海ネットワークセンターでは、NPO法人おうみ犯罪被害者支援センターの活動支援のための寄付を募集しています！

おうみチャレンジ基金助成採択団体であるNPO法人おうみ犯罪被害者支援センターは、専門的訓練を受けた支援活動員が、「一人ひとりに必要な支援を必要なだけ」との思いで、犯罪被害者やその遺族に対して、犯罪被害に関する相談や支援を

行っています。支援員はボランティアですが、支援を充実させるためには支援員の養成や研修、広報活動や事務所の維持管理などに多額の経費が必要です。

この活動を力強く温かく支えてくださるみなさまからの寄付を募集しています。ご支援いただける方は淡海ネットワークセンターまでご連絡ください。

イベント おうみ未来塾 12期生成果発表会

おうみ未来塾は、地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」を目指して、滋賀県のような地域でまちづくりなど市民による活動を学び、2年目にはグループ活動としてフィールドに入り、地域の課題に取り組みます。今回は、2年目を迎える12期生のグループ成果発表会を行います。「地域プロデューサー」を目指すおうみ未来塾生の発表から地域づくりや市民活動を進めるヒントを見つけに来て下さい。

◇日時：12月15日(日)
◇会場：県民交流センター 207会議室 (ピアザ淡海)

※詳細は次号でお知らせします。

寄付 未来ファンドおうみへご寄付ありがとうございます。

8月28日、生活協同組合コープしが様から3回目のご寄付として1,000,000円をいただきました。

今回のご寄付により新しく未来ファンドおうみ「笑顔あふれるコープしが基金」を開設することになりました。当基金は、「人と人とがつながり、笑顔があふれ、信頼が広がる新しい社会の実現」をめざすことを目的としています。



8月13日、有限会社豆藤様より、300,000円のご寄付をいただきました。

今回のご寄付は、「びわ湖の日基金」に組み入れ、琵琶湖と琵琶湖につながる河川や森林などの保全に関わる市民団体などによる実践活動や調査活動などの支援を行って行くための元本としていきます。

募集 未来ファンドおうみ 助成事業2014の募集が始まります！

市民の想いを込めた寄付を市民活動へつなぐ未来ファンドおうみ助成事業2014の募集が12月より始まります。多くの市民からお寄せいただいた寄付をみなさんが取り組む市民活動へつなげてください。

※詳細は次号でお知らせします。

日本政策金融公庫国民生活事業は みなさまの身近な国の金融機関です。

- ・NPO法人のみなさまもご利用いただけます。
- ・新たに事業を始める方にもご利用いただけます。
- ・経営に役立つ情報をご用意しています。

新たに事業を始められる方へ
新規開業ローン

中小企業・小規模事業のみなさまへ
国の事業ローン

お子様の教育資金を必要とされる方へ
国の教育ローン

お問い合わせは



大津支店 国民生活事業 TEL077-524-1656
彦根支店 国民生活事業 TEL0749-24-0201

お気軽にご相談ください。

日本公庫

琵琶湖畔の静かな環境でリーズナブルな貸会議室をご利用ください

キャンセル料はいただきません。 まずはお気軽にお電話ください。



ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター

大津市におの浜1-1-20
Tel 077-527-3315 Fax 077-527-3319
http://www.piazza-omi.jp/ E-mail : info@piazza-omi.jp

淡海 **おうみネット** 87

●2013 秋号●

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

〒520-0801 大津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2階

TEL 077-524-8440 FAX 077-524-8442

http://www.ohmi-net.com

E-mail:office@ohmi-net.com

開館時間 / 9:00 ~ 17:00 休館日 / 月曜日・祝日

●情報交流紙「おうみネット」は次のところに配布しています。県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、びわ湖ホール、滋賀県国際協会、県内大学、県内NPO法人、県内市民活動センター、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さきら、滋賀銀行、京都信用金庫、関西アーバン銀行、滋賀県信用組合、公民館、市役所、各地域環境総合事務所、県民情報室など



Ohmi Network Center

淡海ネットワークセンター

公益財団法人 淡海文化振興財団

編集後記

偶然にも、取材当日開かれた「直会」に飛び入り参加することができました。そして、肌で実感しました。そこはまさしく「いつやるの」「それは今でしょ!」の世界。それはまた、「青春とは心の若さなり!」という言葉が彷彿とさせるに余りある世界でもありました。「板炭焼き保存会」の「青年」のみなさんに脱帽!(おうみネットサポーター 荒木 威)

チャリティー・オークションは欧米のものと思っておりましたが、伊井文子さんや寺院の僧侶の皆さんが立ち上げたNPO法人夢・同人は、日本ならではの文化

を基盤に寄付活動を続けておられました。福祉はもちろん行政が主体となるものではありますが、より生き生きとした社会を実現するには、私たち市民の意識が重要であることを再認識しました。(おうみネットサポーター 幡 郁枝)

「まちの課題は自ら解決する」まちづくり(地域自治)の基本を勉強させてもらいました。高齢化で重要性を増す移動支援事業、継続を願ってやみません。(おうみネットサポーター 中塚 一恵)